

みどりと ゆとりと 平岡公園周辺

大音量が響く。日も暮れた放課後、札幌平岡高校の格技場。ギターやドラムを鳴らす軽音楽部の生徒たちが演奏の合間、畳を積んだステージから訴える。「今も苦しむ人たちがいることを忘れちゃいけない」「当たり前の日々を大切にしよう」

9月下旬、東日本大震災の復興支援に取り組む軽音楽部の定期ライブ。道内への避難者をつくる団体の代表も招き、講演してもらった。活動は震災2カ月後から。被災地を応援する歌をバンドごとに作り、10曲を収めたCDを東北の高校21校に贈った。ライブごとに100円で売り、収益を支援団体へ。津波で機材が流された宮城県の高軽音楽部に古いアンプなども託した。

「私たちにできることなんて見当たらないかと思っていたと、3年生4人のガールズバンド「R.I.S.S.I.（ルークス）」のギターボーカル重本美月さん（17）。それが、音楽でささやかでも誰かの力になれると気付いた。

夏で引退した3年生も入れれば50人。道内屈指の軽音部で、校内でも野球部などを抑え最大だ。同好会として出発した20

⑤ 平岡高の軽音楽部

軽音楽部員たちが被災地へ贈ったCDに収録された1曲、「リレイション」。人との関係と被災した人たちの思い、前向きに一步前に進んでほしいと願う。歌詞を紹介する。

潤れた涙 突きつけられた現実 僕らに何が出来るのか

一人では弱いままの僕だけど 君との繋がりでは強くなれる

ただ知ってほしくて 君に生きてほしくて リレイション いつだって傍にいる

いつもの日々が どこかへ逃げていった 思い出が置き去りにされたまま

一人では強がりの君だから 悲しみをそっと誰かにぶつけてよ

ただ知ってほしくて 君に生きてほしくて リレイション いつだって傍にいる

今日という日の向こう側 そこにはきっと君の笑顔が待っているから

ただ知ってほしくて 君に生きてほしくて リレイション いつだって傍にいる

（作詞・作曲 細矢慧悟）



④定期ライブで熱演する「R.I.S.S.I.」。拳を上げて跳びはねる聴衆の生徒たちで格技場の床が揺れた

⑤札幌平岡高軽音楽部員たち。道内でも最大規模を誇る

01年度から、大学時代にバンド経験をもち教諭の田沢英貴さん（45）が指導する。練習の最初と最後には、必ず音部ってバンドことが別々に練習しては帰っていく貧しスタジオオのようになりがち。一体感を持ってこそ、いろんなことに挑戦できる」（田沢さん）

コンテストへも積極的に出場し、R.I.S.S.I.はこの夏、茨城県であった全国高校生アマチュアバンド選手権でグランプリに次ぐ優秀賞を獲得。上位入賞バンドが参加する日中韓の同世代バンドが集う親善ライブでも、日本代表として演奏した。

地元のステージにも立つ。夏祭りに他の2バンドを招いた平岡梅ヶ丘町内会の会長、山田善真さん（69）は「唱歌も演奏してくれ、口ずさんで盛り上がったんだよ」と喜ぶ。

軽音に憧れ、入学してくる生徒も多い。部長の才賀駿輝君（17）は「2年」もその一人。「みんな仲が良くも切磋琢磨して腕を磨く。人の心を動かす音楽の力を信じているんです」。青春のロックで、元気が届く。

部員全員でミーティング。「軽音部ってバンドことが別々に練習しては帰っていく貧しスタジオオのようになりがち。一体感を持ってこそ、いろんなことに挑戦できる」（田沢さん）

青春ロックで復興応援 心動かす力に

■次回は… 半世紀にわたって続く新聞スクラップ（8日に掲載）

さっぽろ街をつむいで 第14部